

第 5 回リンパ浮腫セラピスト養成講座 講義概要

私が担当する外科的治療の分野はここ 10 年で大きく変化し、進歩した領域です。私の患者さんの中にも圧迫などの保存的治療から完全に脱却できた方や難渋する反復性蜂窩織炎が緩解した方もいます。厳密な保存的治療の遂行・継続が困難な小児や麻痺を有する方においても保存的治療とは異なるアプローチで成果を挙げています。しかし外科的治療単独の効果は非常に大きいものから微力なものまでみられ、まだまだ発展途上の分野と考えています。

リンパ浮腫セラピストの方あるいは目指されている皆様方と同様に外科医は直接患者さんの身体に触れ、治療をするという点では共通点があります。今回の講座では外科的治療のことを知り理解していただくことで我々が共に手を携え、一致団結してリンパ浮腫という難題に立ち向かうことの重要性をお伝えしたいと思います。互いの長所を活かし、欠点を減らすという作業は患者さん夫々に異なりテーラーメイド治療計画が必要です。そのために我々、外科医の行っている診断法、評価法は必ずお役に立てると思います。

「リンパ浮腫の外科治療」では外科的治療の歴史に始まり、試験的で先鋭的な将来を見据えた治療までご紹介します。多くの患者さんに LVA (リンパ管細静脈吻合術) などの外科的治療を行ってきた経験から、各手術法の特徴、効果や欠点までお伝えします。次項とも関連しますが蛍光観察に代表される様々な modality の進歩が浮腫病態の理解に役立っており、それらをどのように手術に活かすかだけでなく、保存的治療との関連性も紹介します。本講座において「リンパ系の発生学・解剖学」を担当されている大分大学の三浦真弘先生の協力でリンパ管周囲微小構造の研究を継続しています。最近では研究成果を手術に反映させ、短時間の手術でより高い効果を得られるように効率化が進んできました。症例や術中ビデオを供覧しながらの講義となります。

「リンパ管 ICG 蛍光造影法によるリンパ浮腫可視化と臨床応用 (実習)」、「圧迫下可視化の臨床応用 (実習)」においては、リムズ徳島クリニックの経験豊富なリンパ浮腫セラピスト高西裕子先生の協力のもとリンパ管 ICG 蛍光造影の実際も紹介する予定です。

当日は浜松ホトニクス社の協力で赤外観察カメラシステム pde-neo を用いた実習となります。同社は 3 度のノーベル賞 (2002 年ノーベル物理学賞：小柴昌俊氏。「カミオカンデ」に用いた光電子増倍管。2013 年物理学賞：ピーター・ヒッグス氏。半導体検出器。そして記憶に新しい 2015 年 10 月 6 日東京大学宇宙線研究所長、梶田隆章氏のノーベル物理学賞における「スーパーカミオカンデ」の光電子増倍管) に貢献した隠れた (?) 巨人です。

愛媛県立中央病院 形成外科・顎顔面外科 医監部長 浜田裕一

